

基本から常用漢字までの自律性を高める指導法：
意味、視覚、構成力を重視して

筆者は25年にわたりニューヨークの大学および教育機関において、初級から上級・超級の学習者に漢字指導を行ってきた。米国では初級で約300字、中級で約1000字、上級で約2000字、超級で3,500字程度の漢字習得を目指すことが一般的である。筆者の指導経験では、レベル別に学習指針を明確に示し、クラス全体のアプローチに加えて各個人に最適な学習法をアドバイスすることにより、多くの学習者を教育漢字習得、常用漢字習得にまで導くことが可能である。そのために欠かせないのが、各自の効果的な自律学習の促進である。本発表では、筆者の漢字指導の中から根幹をなす以下の3点に絞って、要点を述べたい。

1. いかにより自律的学習を効果的に促進させるか。多くの日本語教師の望みは、漢字学習をなるべく学習者の自習に委ね、各自が良い成果をあげることであろう。それが可能になれば、教師はクラス活動のより多くの時間を漢字以外の学習に使うことができる。筆者の経験から、最も効果的な方法を述べる。

2. 漢字に限らず、学習とは本来未知のものに接し、それを自身のものであるとしていく非常に楽しい過程のはずである。筆者が開発した鮮明な画像による美しい視覚教材により、漢字の意味、成り立ちを楽しく印象的に理解、記憶させるアプローチは、漢字学習を子供がきれいな図鑑をワクワクしながら眺めるような楽しみを可能にするものである。

3. 各漢字の音読みと訓読み、それぞれから成る熟語、すなわち漢語と和語を関連づけて理解させ、記憶させる。漢語と和語の言葉を双方から言い換えられるようにする。例として、「新車」と「新しい車」、「譲渡」と「譲り渡す」というように。日本人は小学生の頃からこの言い換え、関連づけを意識的、無意識に行っており、それが語彙と表現を豊かにする過程となっている。これは日本語学習においても、初級後半から取り入れることが可能であり、レベルが上がるに従って威力を発揮する。

さらに大事なのが、関連づけて覚えた「漢語」と「和語」を状況に応じて適切に使い分ける能力を育てていくことである。その結果、自然な日本語の運用能力が高められていき、学習者がより自信を持って日本語を使えるようになる例を筆者は無数に見てきた。

以上の3点を紹介することにより、日本語教育における漢字指導の向上に繋がるような考察、教師間の意見交換のきっかけとなることを願う。